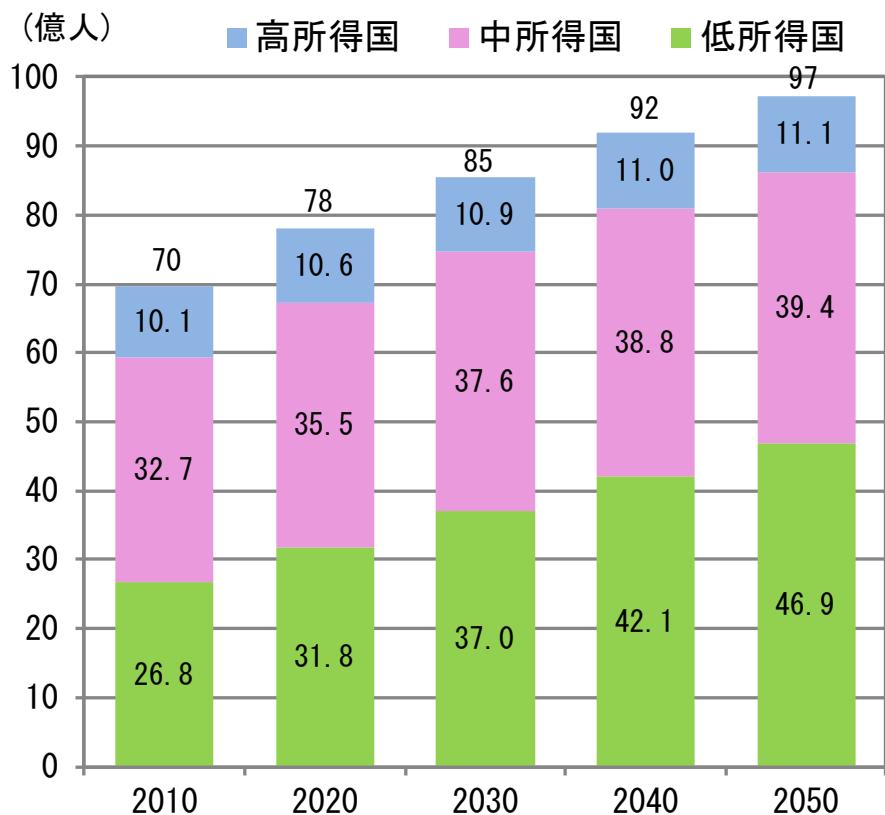


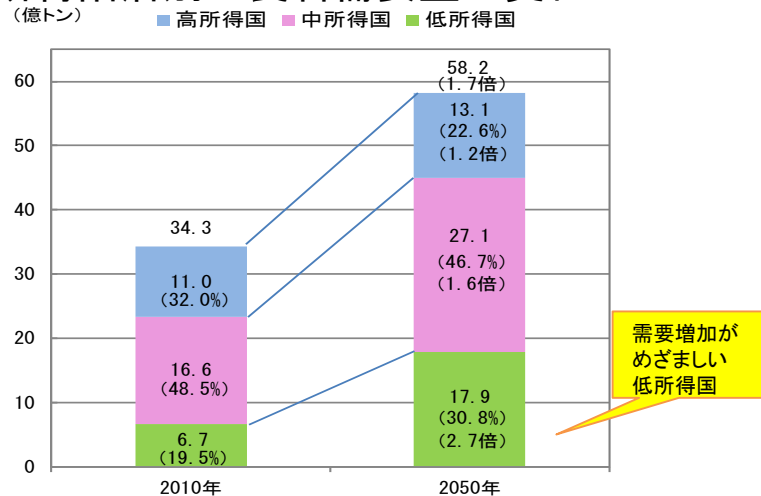
○ 世界人口は2050年には97億人まで増加する見込み。(注1) 特に低所得国の食料需要は、2.7倍に増大し、中所得国も1.6倍に増加する見通し。このため、世界全体の食料生産量は、2010年比で1.7倍の58.2億トンまで引き上げる必要があると予測。(注2)

○所得階層別の将来人口の推移

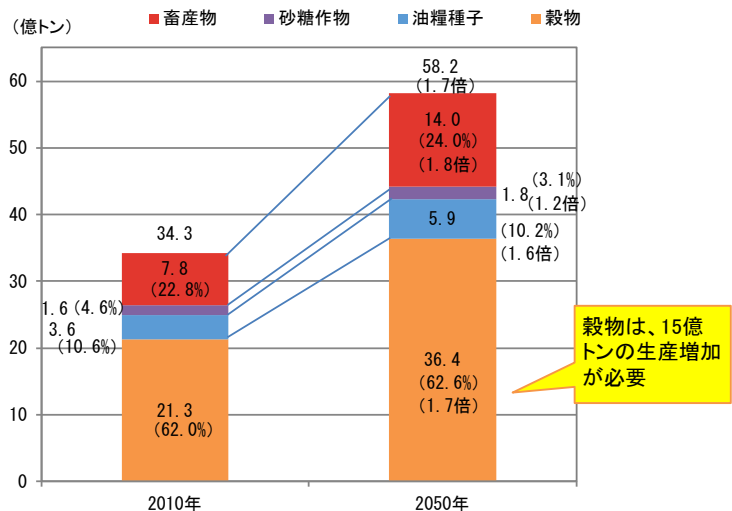


注1: 国連「World Population Prospects 2019」を基に、世界銀行「Analytical Classification」における1990年から2010年の各国の最頻の所得階層分類を当該国の所得階層分類とし、「Low Income」に分類される国を低所得国、「Lower middle income」及び「Upper middle income」に分類される国を中所得国、「High income」に分類される国を高所得国として、農林水産省において作成。世界196カ国をカバー。
 ※参考: 世界銀行の分類基準額は年によって異なるが、2010年における分類基準額は次のとおり。
 一人あたりGNIで、低所得国(1,005ドル以下)、中所得国(1,006-12,275ドル)、高所得国(12,276ドル以上)

○所得階層別の食料需要量の変化



○世界全体の食料生産量の変化

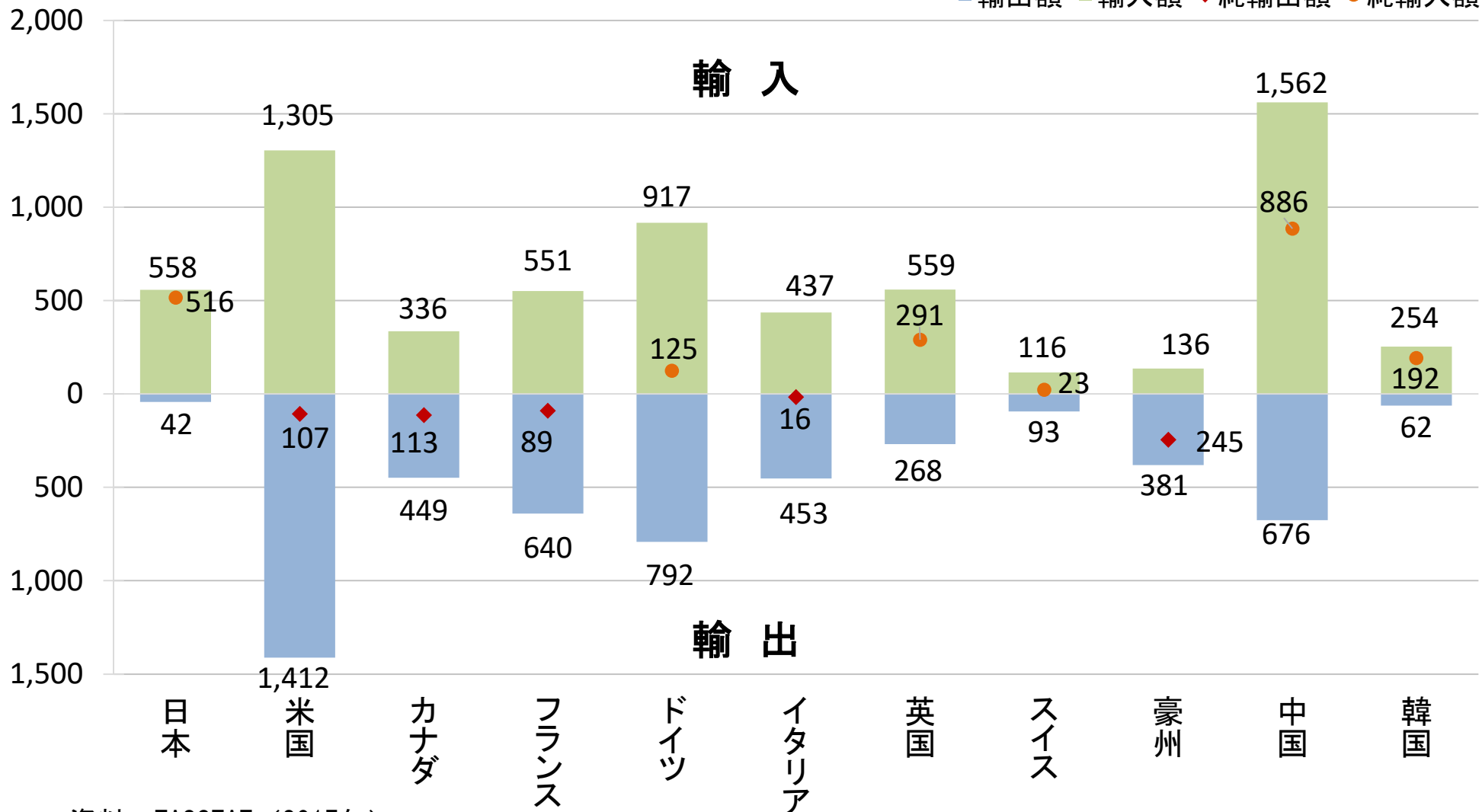


2: 農林水産省「2050年における世界の食料需給見通し」(令和元年9月)より。
 2010年において主要穀物のデータが整備可能な123カ国をカバー。所得階層分類は、注1と同じ。

○ 我が国の農産物純輸入額は2017年で516億ドルであり、世界有数の食料輸入国。

○ 世界の農産物の輸出入状況

(億米ドル)

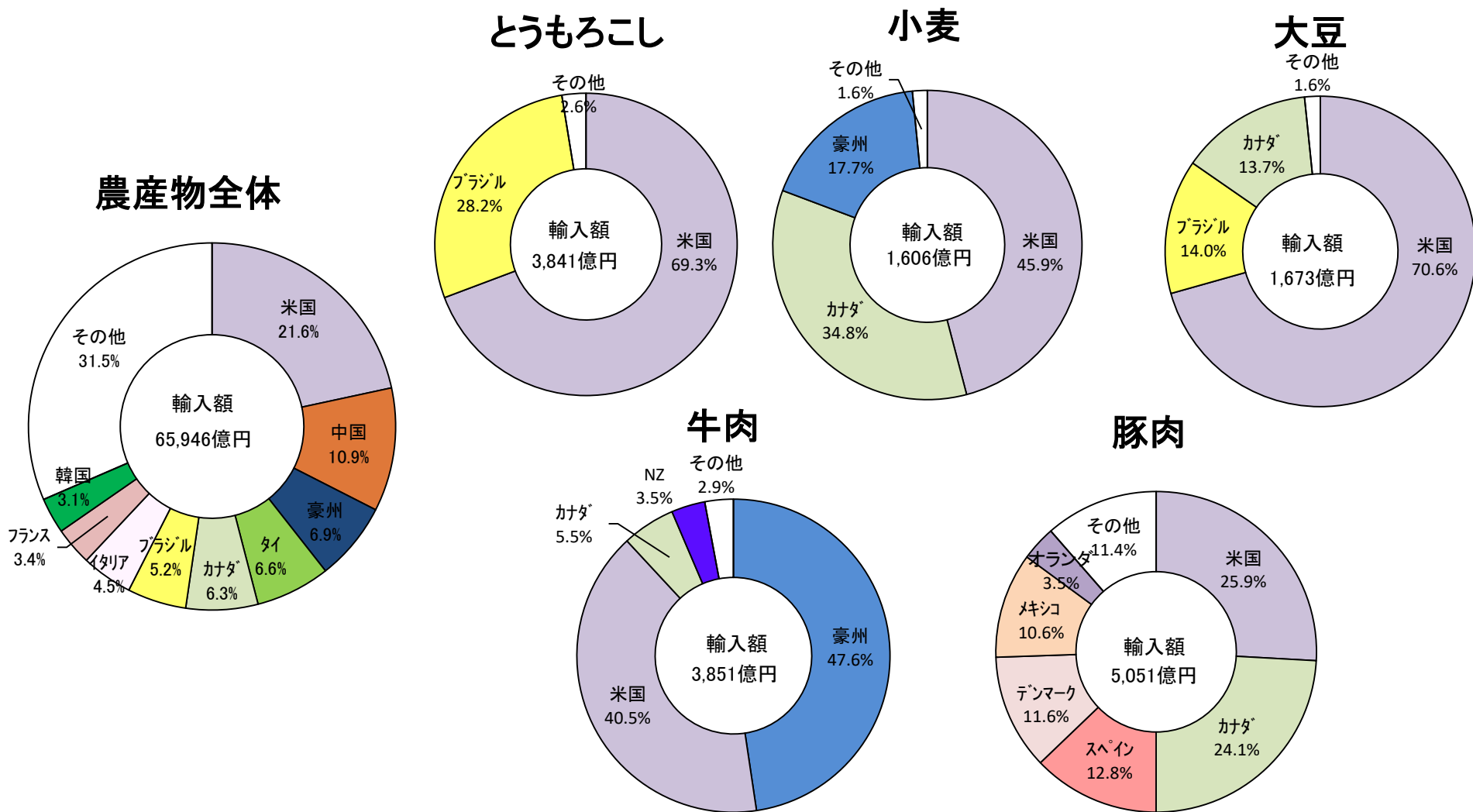


資料：FAOSTAT (2017年)

注：中国は、香港、マカオ及び台湾を除く。

○ 令和元年(2019)年における我が国の農産物輸入額は、6兆5946億円となっており、とうもろこし、小麦、大豆、牛肉などの主要農産物で見ると良好な関係にある国からの輸入が大きい。

○ 我が国の主要農産物の国別輸入割合(2019年)

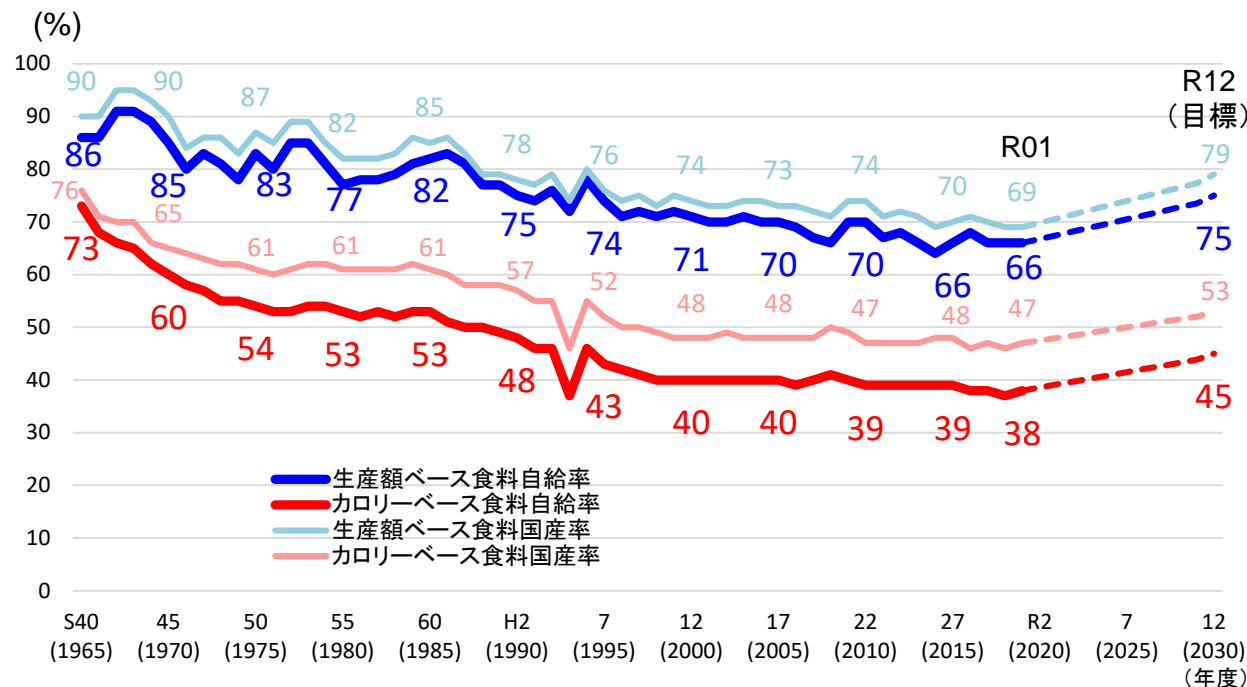


資料: 財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成

○ 我が国の食料自給率は、長期的には低下傾向で推移しており、令和元年度にはカロリーベースで38%、生産額ベースで66%。

○ 「食料・農業・農村基本計画」(令和2年3月閣議決定)において、令和12年度までに食料自給率をカロリーベースで45%、生産額ベースで75%に引き上げる目標を設定。

○我が国の食料自給率の推移



○カロリーベース食料自給率を1%上げるためのアクション

ごはんを1日にもうひと口(14g)食べると1%向上



国産米粉パンを月にもう約6枚(398g)食べると1%向上



国産小麦100%使用のうどんを月にもう約2玉(603g)食べると1%向上



国産大豆100%使用の豆腐を月にもう約2丁(560g)食べると1%向上



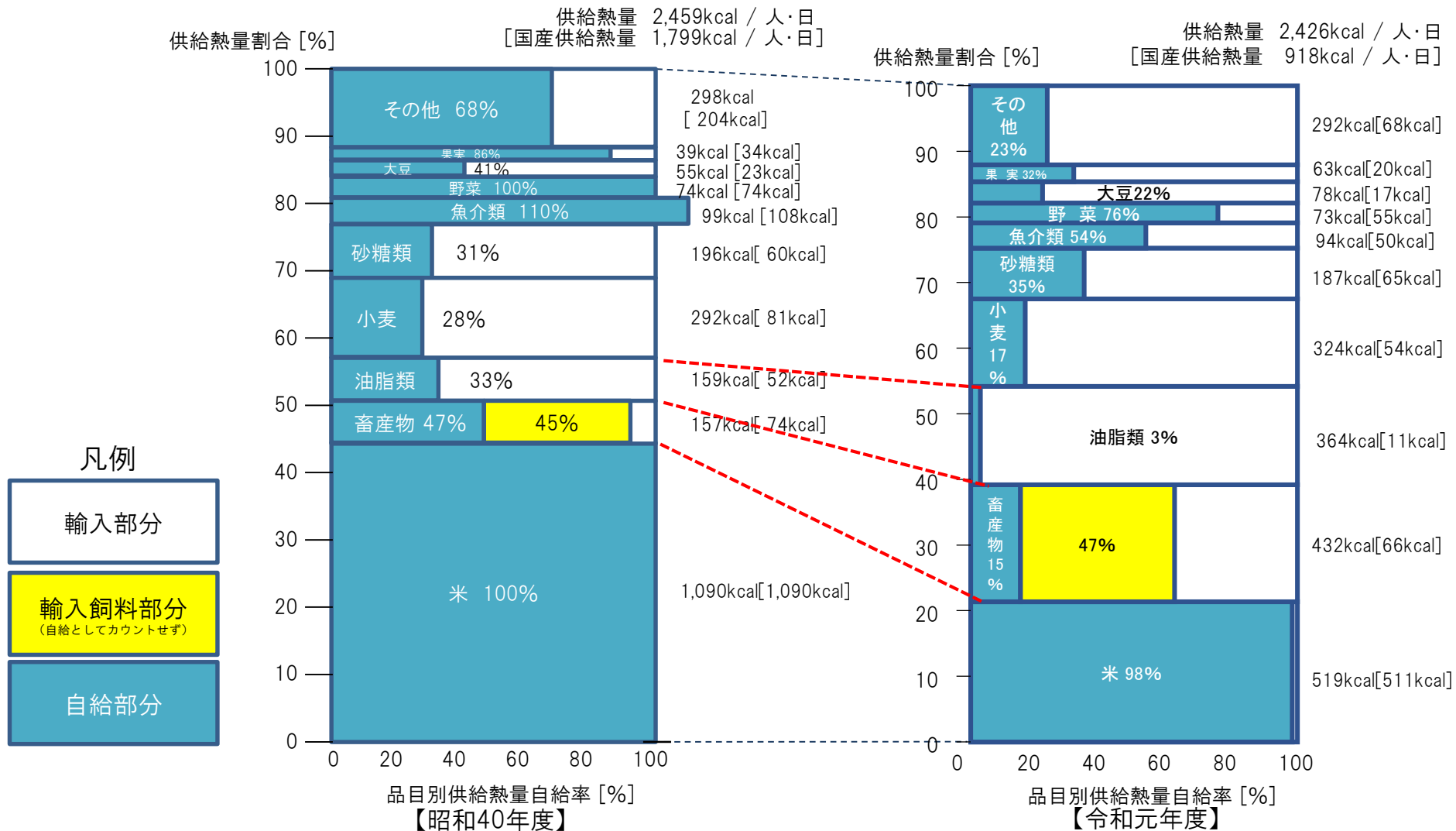
○ 不測時に輸入食料の減少分を飼料用米で補うと仮定した場合の食料自給率

(カロリーベース、令和元年度)

総合食料自給率 39% (平常時に比べ1ポイント上昇)

○ 昭和40年度と比較すると、食生活の洋風化等が進み、自給率の高い米の消費が減少する一方、飼料や原料を海外に依存している畜産物や油脂類の消費が増大したため、カロリーベース食料自給率は大きく低下。

○ 供給熱量の構成の変化と品目別供給熱量自給率



(カロリーベース総合食料自給率 73%)

(カロリーベース総合食料自給率 38%)

○ 食料自給率目標は、主要品目の生産努力目標を前提としている。令和元年度に、既に目標水準を上回る品目もあるが、下回る品目については、目標の達成に向けてさらに取り組んでいく。

○生産努力目標と生産量の実績値

	H30 基準年度	R1	R12 目標年度
カロリーベース 食料自給率	37%	38%	45%
生産額ベース 食料自給率	66%	66%	75%
飼料自給率	25%	25%	34%
カロリーベース 食料国産率	46%	47%	53%
生産額ベース 食料国産率	69%	69%	79%

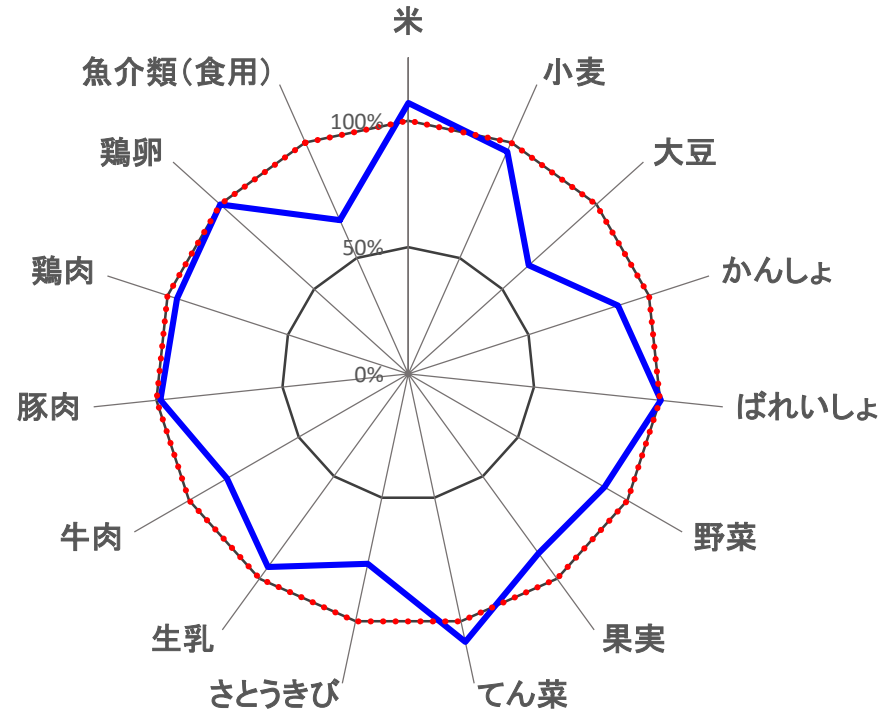
	H30 基準年度	R1	R12 目標年度
米	775	774	723
小麦	76	104	108
大豆	21	22	34
かんしょ	80	75	86
ばれいしょ	226	240	239
野菜	1,131	1,166	1,302
果実	283	270	308
てん菜	361	399	368
さとうきび	120	117	153
生乳	728	736	780
牛肉	48	47	57
豚肉	128	129	131
鶏肉	160	163	170
鶏卵	263	264	264
魚介類(食用)	335	315	474

単位: 万トン

(注1) 米は米粉用米、飼料用米を除く

(注2) 基準年のH30の数値は、令和2年基本計画策定時の最新値である概算値。

○生産努力目標の達成状況



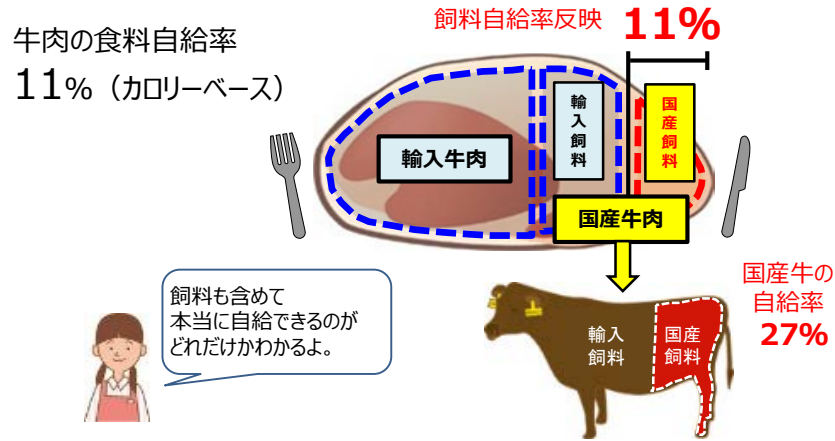
青実線: R元年度実績値/R12年度目標値

令和12年度目標値を上回っていれば赤(100%)の外側、下回っていれば内側

(注) 米は米粉用米、飼料用米を除く

○ 新たな食料・農業・農村基本計画（令和2年閣議決定）において、飼料が国産か輸入かにかかわらず、畜産農家の増頭・増産努力を反映する指標である「食料国産率」の目標を新たに設定し、国内生産の状況を評価することとした。

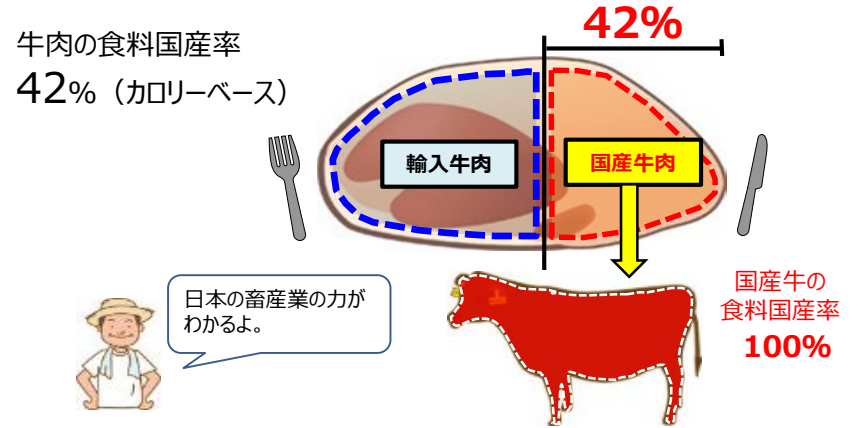
食料自給率（飼料自給率を反映）



- ・国産飼料のみで生産可能な部分を厳密に評価できる。
- ・国産飼料の生産努力が反映される。

➤ 我が国の食料安全保障の状況を評価

食料国産率【新規】（飼料自給率を反映しない）



- ・需要に応じて増頭・増産を図る畜産農家の努力が反映される。
- ・日ごろ、国産畜産物を購入する消費者の実感と合う。

➤ 飼料が国産か輸入かにかかわらず、畜産業の活動を反映し、国内生産の状況を評価

食料自給率の向上のイメージ（例：牛肉のカロリーベース）

輸入飼料による国産畜産物

国産率 42%

国産飼料による国産畜産物

自給率 11%

○飼料自給率の向上
⇒国産飼料の増産

○食料国産率の向上
⇒輸入畜産物から国産畜産物への置き換え
⇒国産畜産物の輸出

元年度	食料自給率	食料国産率	差
総合	38%	47%	9ポイント
畜産物	15%	62%	47ポイント
牛肉	11%	42%	31ポイント
豚肉	6%	49%	43ポイント
鶏卵	12%	96%	84ポイント

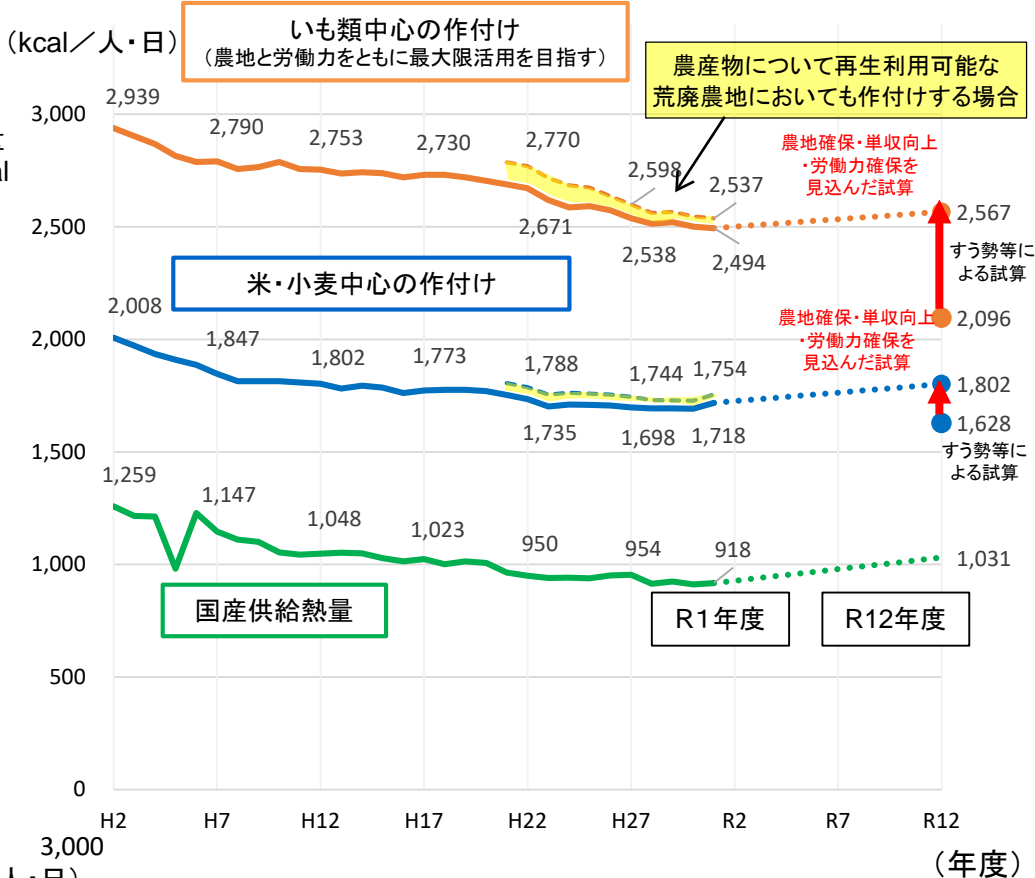
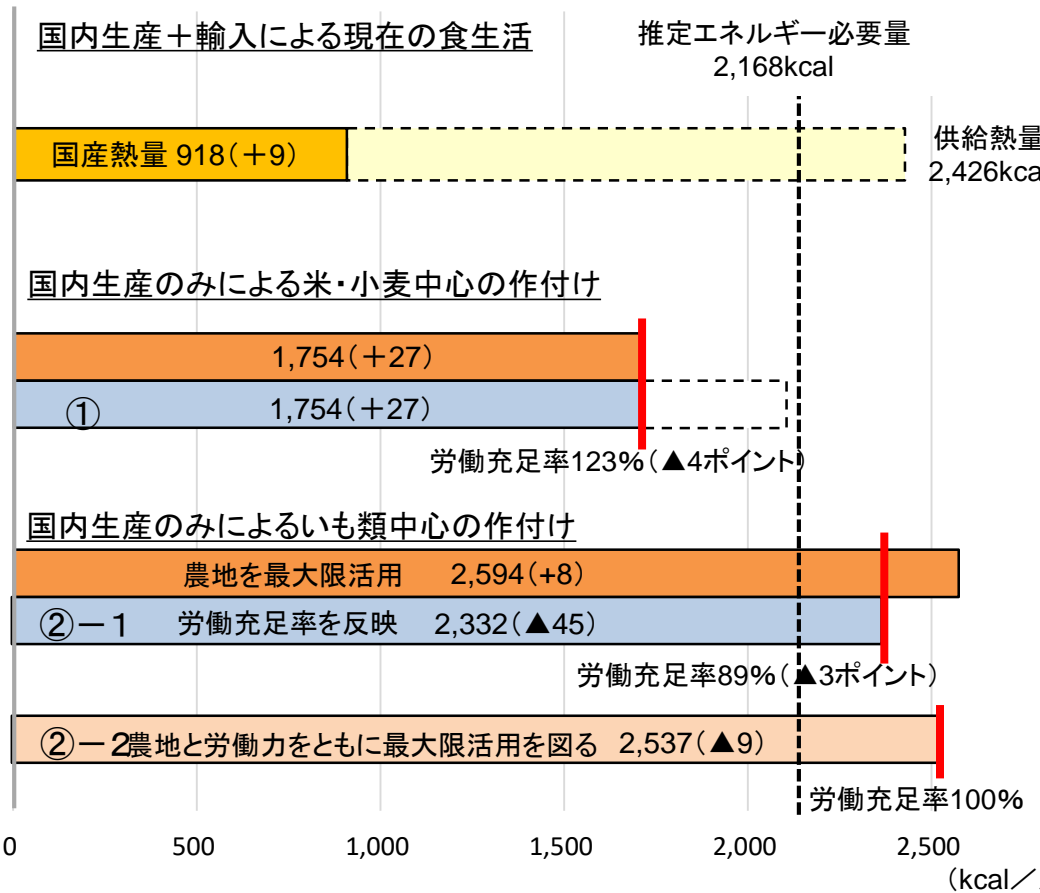
※数値はカロリーベース

「食料国産率」と「飼料自給率」の双方の向上を通じて、「食料自給率」の向上を図る

- 食料自給力指標とは、「国内生産のみでどれだけの食料(カロリー)を最大限生産することが可能か」(食料の潜在生産能力)を試算した指標。
- いも類中心の作付けでは推定エネルギー必要量(2,168kcal)を上回るものの、米・小麦中心の作付けでは推定エネルギー必要量を下回る。

○食料自給力指標の姿(令和元年度)

○食料自給力指標の推移



※推定エネルギー必要量とは、1人・1日当たりの「そのときの体重を保つ(増加も減少もしない)ために適当なエネルギー」の推定値をいう。